



723



本日刊行ノ東京タイムズ新聞中行為ノ基礎ト
 右書類ハ其文体殆ト小説ニ類シ度一共亦當時支那在
 留ノ英領事ハルリトパークス氏ノ処置ト又一般ニ英
 公使及ヒ水師提督等ノ支那人ヲ処スルノ実況トヲ見
 ルニ足ルヘキモノニ候
 古時時ニ於テ支那人ヲ残害致度熱心ハ今日ニ於テモ
 其權利ヲ掌握スルヲ得度ハ直ニ之ヲ日本ニモ行
 ハント致居度勿論時勢ノ変換ニ依リ目今ニ於テハ家
 早抑壓暴行ヲ以テ曩キノ如キ權利ヲ占有スルハ相
 成不甲候ハ氏彼等ノ偽詐奸計ニ因テ今ニテモ其暴力
 ヲ振ハント致間敷ニモ無之居間斯ハ外交家ノ詐術ヲ

校

大正十一年四月

4108



ハ能々御注意有之候様致度候

就テハ又東京タイムスノ次号ニ於テ尚ホハルリ

トクス氏ノ行為ヲ載セ夫、著明ナル支那鴉片ノ戦争

ニ付テ同氏ノ処置ヲモ巨細ニ揭示候様致度尚ホ又同

時ニ夫ノ暴行ノ次第ヲモ記載相成候ハ、別シテ可也

ト存居候 敬具

千八百七十七年

横濱山手甲七十五番

十二月廿四日

ジョーリン、ゴーブル

平井君貴下

東京タイムス抄訳十二月廿二日刊行

行為ノ(基礎)倫敦八百五十七年刊行

廣東砲撃ノ一条ニ関シタル支那分翰類ハ既ニ其花々

敷訳文ヲ述項ノ新聞紙上ニ掲載レタルハ此ニ又其純

粹ノ英文ト共ニ我カ領事水師提督及ニ全權公使等ノ

往復秘信トヲ列行セントス但シ此秘信ハ外交家ノ設

詞ニ因テ其文意ヲ為スモノナリ

○辨理官イー氏ニ呈ス

貴国軍艦一艘ダツチナリト述傍ニ砲泊シタル我英国ノ

小船(西洋形ノ支)「ア」ル「ロ」号ハ魏密朱ニ同船乗組ノ支那

水夫十二名ヲ捕ヘ去リ且我英国ノ旗章ヲ列下口シタ

リ

目テ予ハ直ニ該軍艦ニ赴キ司令官ニ面會セラ此暴挙

ノ許シ難キヲ論シ且曩キノ水夫ヲ悉皆英國領事館へ
送付セラレハキ旨ヲ要求セシニ司令官ハ毫モ之ヲ聽
カスレテ夫ノ水夫等ハ皆之ヲ獄ニ繋キタル旨ヲ云ヒ
且予カ速ニ該船ヲ釋シ去ルニ非サレハ又同ク捕縛ス
ヘキ由ヲ云ヘリ

予固ヨリ是等ノ害ニ罹ルヲ好マサルコ故ニ速ニ該船
ヲ釋シ歸リ此ニ其始ホヲ貴下ニ報ス請フ該船ノ長官
レアシクワスチニ令シ即時ニ水夫ヲアルコウ号へ送り
歸サレヨ且此始ホハ予既ニ之ヲ我カ全權公使ト水師
提督トニ通知シタレハ貴下此旨ヲモ諒知セラレヨ貴
下モ亦暴行ノ許シ難キヲ知ラルハ若シ適宜ノ謝罪
書ト共ニ速ニ水夫等ヲ送り歸サレスハ予ハ決シテ之
ヲ承諾セサラントス左レハ後日ノ雷電ヲ覺悟セラレ

ヨ憤怒ニ堪ヘス

英國領事 エッチ、エス、パークス

○(パークス氏ヨリ英國軍艦「ビ」号ノ水師提

督エリヲトへ送りレ書翰)

秘書

此ニ一機會アリ當國ノ賊双等苟モ英國ノ旗章ヲ掲ケ
タル我小船ノ水夫等ヲ奪ヒ去リタレハ予直ニ之ヲ送
リ歸スヘキ旨ヲイハレ中達リタリ未タ何等ノ回報ナ
ケレト必ス返答ハ為シ難カルベシ
元來豚尾双ノ状態ハ貴下能ク知ラル、如レ然ルニ夫
ノ小船ノ地方船籍ハ曩キニ滿期ノ節未タ改正ヲ為サ
、リレテ必然ナレバ、イモ亦之ヲ以テ拒絶ノ主義ト
為スニ相違ナケレド予ハ決シテ彼レト法律ノ得失ナ

ドヲ丁寧ニ論辨セザルヘシ只予ハ貴下ノ手下ニ在ル
三十二斤砲ガ必ス此争論ニ勝タレムベシト信スルナ
リ是ヲ以テ速ニシビト止号ノ備ヘテ設ケラレヨ

英領事館ニ於テ十月八日 エツチ、エス、パークス

○(パークス氏ヨリイリ回答書添へジョンバツリ

レング氏へ送りタル書翰)

秘書

別紙イリヨリノ回答書ヲ添へ稟告ス愚^察ノ如ク彼レ
ヨリハ更ニ謝罪ノ事ナク却テアルロウ号ノ英國旗章
ヲ揚クヘキ權利ナキ等法上ノ遁辞ヲ申越シタリ然レ
該船ノ書留ノハ去ル九月廿七日ニ於テ改正スヘカリ
レニ曾テ其事ナカリレカドモ彼ハ章ニ此大事ノ点ヲ
失念シテ云ハサリキ海賊ノ一件ニ至テハ予モ始メテ

之ヲ聞ク所ニシテ其事ノ信偽ハ知ラサレ比然レ現ニ
捕縛サレタル土人ノ身ニハ更ニ証跡ノ依ルベキナキ
ハ必然ナレハ如何様ニモ予ハ此事ヲ充分ニ論辨スル
ヲ得ヘシ又予カシゴト此号ヲ用意スヘキ旨エリヲト
ニ書送セシトハ貴下請フ許容アレ免モ角モ此一条ハ
此時ニ早ク大砲ヲ引出スヲ良策トス然ラサレハ彼奴
等何処マテモ我輩ト法律ヲ論辨セントスルナルヘシ
英領事館ニ於テ十月十日 エツチ、エス、パークス
再申本文中イリヨリ九名ノ水夫ヲ送付シタル事ヲ記
載スルヲ失念セリ勿論予ハ此水夫ヲ受取ルトテ拒ミ
レガ彼レノ餘ノ水夫ヲ送り歸サ、ルハ尚ホ審判中ニ
在ルカ故ナリト云ハ笑フベシ抑彼レハ英領事ノ要求
ニ對シテ更ニ那法ヲ施行スルニ如何ナル處置ヲ用ユ

(別紙) 一回答

○帝國政府辨理官云々イヨリ廣東在留英國領事
事バークス氏へ呈スル書

昨日ノ賞翰收手未示ノ返答カ、兼知セリアルロウ号
水夫ノ事ハリニヒンノ商人ワニリケリナル者去ル
九月中海賊ノ為ニ其所有船ヲ劫掠セラレレニアル
ロウ号ノ水夫レニヒンテナル者別チ其賊ノ一人タル
テ該商人ノ告訴ニ因テ明白ナルニ付之ヲ捕縛セリ殊
ニ該商人ハ昨日河口著到ノ折柄アルロウ号ノ其傍ヲ
ヲ過キテ出帆スルヲ見届ケタル者ナリ之レニ日テ合
罪ノ疑フベキナキ若九人ノミヲ送歸ス此外ニ水夫ノ
一人ヲヒン、キン、フトナル者ハ同將舵夫ト為リ本犯人ト

共ニ海賊ヲ為セシテ明白ニシテ(固人ハ船ヲ劫掠シケル
際之ニ徒覺セシニ相違ナキ若ウリアジ)又ウリアジ
ナル者ハアルロウ号ノ所有主及ヒ船籍ヲ詳カニシ
該船ハ支那人ノ所有ニシテ英國船ニ非サル旨ヲ証明
セシ若ナルニ付則チ此人ヲモ拘留ス到底海賊ノ所
行ハレニヒンテ一外ニ名ノ口供ニ因テ予之ヲ詳カニス
ルヲ得タリ
右ノ答辯ヲ以ラスレハ水夫等ヲ拘引セシハ實ニ英國
ノ旗章ヲ汚辱セン為ニヒシ事ニハ非スシテ畢竟支
那國船ニ於テ支那國法ノ許ナシ大罪ヲ犯カセシニ
付則チ律法ニ因テ之ヲ捕縛セシ事ナルヲ諒知セラレ
ハシト信ス且マ予カ此答辯ヲ送ルノ神速ナルト又審
判ヲ要セサル水夫等ヲ送歸スルノ快手ナルトハ賞下

ツレテ予が謝罪ヲ為スヘキ程ノ罪ヲ犯セシメナク且
予ハ勿論当府ノ人民モ黄書中ニ載セラレタル事件ヲ
毫モ悲ル、謂レテキヲ明知セシムルニ足ルヘシト思
フナリ

咸豊六年九月十二日

○(ジョーン、バウリ、ング氏ヨリハークスマ氏ノ九日付
ノ書翰ニ答フル書)

是下イ、ノ豚尻頭ヲ一打セラレシハ頗フル大早計ナ
ル如ク予密カニ之ヲ悲ル然レ折角予ニ振舞ハレシ亦
贈ナルカ故ニ予ハ豫テ是下ノ始終ノ動作ヲ見ント欲
ス元來如何ナル妨害ノ為メニ是下ハ此騷動ヲ果タス
ニ先立テアルロウ号ノ英國旗章ヲ揚クルノ權利ア
ル様ニハ行ハザウレゾ若レ斯ノ如ク為レ置カハ我輩

ハ始終ノ勝算ヲ得ルニ難カラサリレナランツ左モア
レ既往ハ論スルモ益ナクニ個ノニツハ因ヨリ四個ナ
ルノ理ニシテ該船ノ我カ旗章ヲ揚クベキ船籍カ既ニ
去月廿七日ニ於テ滿期セシ上ハ該船ハ何等ノ權利ヲ
有セザルモ始ヨリ明カナルナリ
然レ是下ノ云フカ如ク幸ニシテイ、ハ此要點ヲ押ヘ
サルカ故ニ我輩幸フシテ改出ツヘキ少シノ板穴ナキ
ニ非ス是下モ知ラシ、如ク夫那人ハ非凡ノ人種ニシ
テ其勉勵研究スル風習ハ財カラ改畧ノ威力ヲ保スル
事アリ且夫ノイ、ハ家モ博學ニシテ大能モ亦拔群ナ
レハ其條理ヲ有スル場合ニ於テハ決レテ容易ニ屈服
スヘキ者ニ非ス而モ是下ハ勿論予サヘモ外交ノ道理
ヲ審議闊論スヘキ程ノ智力ハ充分ナル者ナリ之レニ

付テモ予ガ現存ノ地位ニ在ルハ英國ノ為メニ如何計
リノ幸福ナラント思ハサルノ日ナシ斯ノ如キ博學多
クノ支那官吏ヲ敵手トシ學者ノ一人トシテ英國當路
ノ顯官ニ在ラン者ハ予ヲ措テ外ニ誰レニカ在ンヤ
然リト虽モ實ニ斯ノ如キ騷動ヲ數度持來タサレテハ
是下ニセヨ予ニセヨ屹ト其難ヲ免ルヘシト予ハ答ノ
ル能ハサルヤク免モ角モ予ハ自カラ安立スヘキ程ノ
法律ノ是ヲ持タサルカ故ニ則早々ニセイモールト又
其大砲トヲ呼出シタリ而シテ四十八時間ニ謝罪ノ陳
状ヲ為スヘキコトナリニ通知セシムルハ是下モ亦承知
ナルヘシ凡テ要路ニ在ル學者輩ハ今回ノ事件ニ於テ
容易ニ其見込ヲ屈セサレバ況ニマ彼等ハイート共
ニ充分至当ノ理由ヲ保スル時ナルヲマ是故ニ予ハ偏

ハコイカ彼等共ニ均ク不任意ノ点ニ臨ルヲ背タサ
ル可カラサルヲ恐ルナリ

香港ニ於テ十月十日 ジョン・バウリ・レグ

○英領事ヨリ同全權公使ヘノ書翰

秘書

來翰ノ趣具サニ領事余等頗ル困却ノ地位ニアレト
モイカ載籍滿架ノ要點ヲ主張セサルコソ大愉快ト
スヘシイカ尚謝罪ヲ拒ミ小船ノ支那船ニシテ英
船ニアラサルヲ及履セリ彼カ言堂ニ然ルト虽モ法
理上ヨリ之ヲ論セサルニ固リ余ハエリヲフトニ命シ
支那船一艘掠奪セシメタリ頓首謹言

於廣東領事館

十月十五日

エチエス・パークス

セージョン貴下

○英領事ヨリ辨理官イー氏へノ書翰

若レ四時間ニ謝罪ヲ為サレハ足下ノ耳邊ニ於テ
足下ノ居館ヲ砲撃スヘシ今ニ至テ商船ノ属不属ト法
理ナトヲ論スルハ偽^キ痕ノ至リナリ唯謝罪スヘシ然ラ
サレハ足下ノタメニ惡シカリナン

十月廿一日

エクスパークス

イー足下

○英領事ヨリ同水師提督ニチエールセイモール氏
へノ書翰

秘書

イー先父尚義ヲ執テ頑然タリ貴下若レボグーノ砲
臺ヲ占ムルヲ得バ彼ヲシテ悔悟セシムヘシ再拜

十月廿二日

エクスパークス

サーニチエール貴下

辨理官イー氏ヨリパークス氏ニ送ケタル公翰
貴國ノ水師提督ボグー砲臺ヲ畧シタリトノ通知ヲ領
セリ余ハ己ニ之ヲ知り甚ク憂苦ニ堪ヘス然レトモ世
箇ノ砲臺ヲ畧シタリトテ黒ク化シテ白トナスヲ得マ
ホ余ノ惡事ヲ犯サ、ルヲ自ラ信スル以上ハ謝罪ヲ
ナスヲ能ハス足下ハ英人ニシテ天ヲ敬シ日曜日ニハ
寺院ニ於テ礼拝ヲ怠ラス又公道ヲ尊フト申ケレタリ
此回ボグー砲臺ヲ取ラレシハ前事ト符合ス所アリヤ

咸豐六年九月十七日

廿五日提督セイモール氏ヨリブレンドンヘイム及マカ
リ僅塔ヲ占ムタル旨ヲ公使ボーリング氏ニ報告セ

リイ一氏尚来ヲ謝罪セム

廿六日ハ日曜ヲ以テ休暇タリ蓋シ英人ハ辨理官ハ
11氏ノ失言ノ如ク日曜ヲ重ニスルニ相違ナレト思
ハル

○サ一ミチニルセイモール氏ヨリ領事ヘノ書

翰

如此有様ニ於テ努力ナシ支那人ヲ叱咤スルハ實ニ余
ノ恥ニ所ナリ且彼ハ直ニシテ我ニ曲アルトキハ殊更
ニ堪ヘサルナリ尚多ク砲丸ヲ彼ニ送ラレハ莫下ハ余
ノタメニ相應ノ口實ヲ發見スルヲ得ヘキマ是下ハ
イ一ニ余ノ訪問ヲ受ケヨト言出サハ如何彼若レ之ヲ
拒メハ未週ノ中頃ニ彼ト衙門トヲ吹教ラスモ仔細ナ
カクハレ千八百四十二年同四十六年ノ古約條ヲ持出

タレ我ヲ正理タテシムルヲ如何再拜

十月廿七日

エムセイモール

パークス貴下

領事ヨリ提督エムセイモール氏ヘノ書翰

是下ハ頗ル用心家ナリ余ハ即座ニイ一ノ貴下ヲ迎ヘ
ニテ主張スヘレ古條約ハ少レク陳腐ニレテ多分効
力ナクニシ然レ一應試ムヘキナリ再拜

十月廿七日

エムセイモール

パークス貴下

○
支那辨理官ハ在廣東英領事サ一ハルリパークス
氏ニ報告スルヲ如左ニ是下余ノ貴國提督ヲ迎ヘン

主張スレトモ原ハ肯ニセヌ

十月廿七日

○領事ヨリ公使へノ書翰

漸クニレテ好機ヲ得タリイハセイモールヲ迎フル
ヲ否ミタリ者下之ヲ聞カハ大ニ安堵セラルト信ス
竊早急聲ハ條約ニ因テイロー責ムベキ充分ノ權利アリ
拒絶ノ成果ハ彼カ首ニアルヘシ頓首

十月廿八日

エテエスパークス

サージョレ貴下

領事ヨリ公使へノ書翰

今暫時條約ヲ主張スルノ早カリレテ願ヒシト虽モ遂
ニ足下トセイモールトガ正理ニ達シタリト甚ク勸喜
ニ堪ハス余ハ本國ニ於テ權限律ノ此ノ場合ニアルヲ

余ニ責ムルモノアルベシト少シ心配ナレトモ已ニ此
ニ至リタレハ宥早退クヲ得ス足下セイモールニ報セ
ヨ速ニ鞏立テヨ然レ成ルヘクタケ人ヲ殺ロスナ已ム
得ナルニアラサレハ民産ヲ損フナ余ノ胸中ハ不屈ノ
支那人ノタメニ涕々タリイハ足下ノ論鋒ニ對シ勝
利ヲ有ムレトモセイモールノ大砲ニ向テハ一言ナカ
ルヘシト惟フナリ余ハ此事ヲ謝罪ヲ拒ミ以前再三
思考シタリキ往者ノスパムタン人若シクハ當時ノ瑞
士人ナレハイノ事勅ハ勇故トモ称スヘシ然レ支那
人ナルニ因リ頑固思ムヘシ而テ暫時モ用捨ス可ラス
匆々頓首

十月廿九日

パークス貴下

ジョンボリーレク

